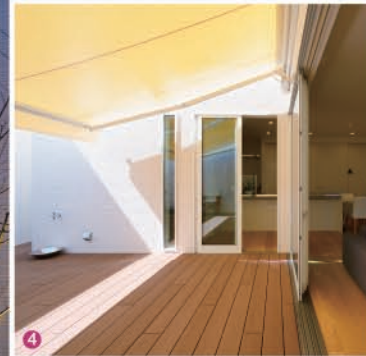




住宅密集地にありながら開放的な住まい。 重視したのは家族みんなの暮らしやすさ。

この中庭があることで、プライバシーや採光を確保でき、新たな建物が建つなど周囲の環境が変わっても、その影響を受けることがない。



① 高い吹き抜けに設けた窓は、邸内に明るさをもたらすだけでなく、趣味である読書にも最適な2階のフリースペースから遠くの山の緑を望む楽しみも与えてくれる。② スケルトン階段で、より開放的なリビングに。③ 植栽をやりわりとライトアップした夕暮れ時の坪庭。窓越しに見えるのは、住宅密集地に建つ家であることを忘れそうなほどに穏やかな光景。④ 陽射しが強い季節は、可動式のサンシェードで涼やかな日陰を作ること。⑤ 27畳もの広々としたLDK。窓を開放すると13.6畳の中庭がさらなる広さを演出してくれる。⑥ 浴室には、掃き出し窓から出入りできるバスコートを設置。⑦ 白い外壁で統一したシンプルな外観ながら、玄関部に杉板を用いて落ち着いた佇まいに。



耐震+中庭.style com HOUSING

岡山市北区十日市中町6-22
☎ 0120-67-2102 fax.086-223-2103
◆ 営/10:00~17:00 ◆ 休/水曜・祝日
※ 営業時間外もご連絡をいただければ相談に応じます。
<http://www.comhousing.com>

※「オセラ」掲載のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。



「中庭があれば、光と風を存分に取り込むことができず。中庭と室内が一体化することで邸内をより広く感じられますし、四季を感じられる住まいにもなります。隣家や道路からの視線を遮ることができるのも、大きな利点です」。そんな「中庭・style」の住まいを提唱する「コムハウジング」が二年前に開催した、オープンハウスに足を運んだAさん夫妻。四〇年ほど前に分譲住宅団地の一角に建てた、自宅の建て替えを考えていた夫妻は、「中庭があれば、密集地でも快適な住空間が可能になる」と確信。当社での建て替えを決心したのだと言う。

旧宅は、「冬になるとどこからともなく隙間風が入ってきて、外より家の中の方が寒く感じる」ことがよくあったとか。そのため、希望したのは「身体に負担がなく、家族みんなが心地よく暮らせる家」。家族思いのご主人は、奥さまもお母さまもみんな納得した上で、家づくりを進めたいと、家族揃ってオープンハウスなどに足を運んでは、間取りや部屋の広さなど図面では理解しづらい部分を、ていねいに説明したそう。なかでも、長年住み慣れた家を解体しなければならぬお母さまの心情を和らげようと、間取りにもひと工夫。使い勝手がよく、お友だちも気兼ねなく遊びに来ていただけるよう、母の部屋とトイレを玄関近くに配置しました。

建て替えの決め手となった中庭は、三カ所。敷地の大きさや形状、近隣の状況などによって、中庭の大きさや壁の高さは異なり、一邸一邸ごとに最善の形となるようプランしています。そう話す代表取締役の西村暢啓さんは、「家々に囲まれている住宅地だからこそ、玄関を開放的にしたい」との希望を受け、玄関から目に見える坪庭を設置。また、「開放感あふれる家にしたい」という家族の思いに細やかに応えるため、浴室にもバスコートを。掃き出し窓から出入りできるので、「風呂上がりには、ビールを片手に夕涼みという楽しみも生まれました」と、夫妻は笑顔を見せる。三つのなかで最大の中庭は、リビングから続くメインコート。フラットなウッドデッキの中庭は、リビングとの段差もないので、窓を開け放つと、もともと広いリビングがさらに広々とした雰囲気。大きな吹き抜けと相まって、願ったとおりの開放的なリビングになりました。その吹き抜けに配された大きな異なる窓は、いく通りものパターンから選んだ奥さまこだわりの配置だとか。

そのほか、家事動線といった機能性や細部にいたるまでのデザイン性、耐震強度などの安全性など、家族の要望をすべて叶えた住まいで、家族三人は新たな暮らしを満喫しているそう。

「中庭があれば、光と風を存分に取り込むことができず。中庭と室内が一体化することで邸内をより広く感じられますし、四季を感じられる住まいにもなります。隣家や道路からの視線を遮ることができるのも、大きな利点です」。そんな「中庭・style」の住まいを提唱する「コムハウジング」が二年前に開催した、オープンハウスに足を運んだAさん夫妻。四〇年ほど前に分譲住宅団地の一角に建てた、自宅の建て替えを考えていた夫妻は、「中庭があれば、密集地でも快適な住空間が可能になる」と確信。当社での建て替えを決心したのだと言う。

旧宅は、「冬になるとどこからともなく隙間風が入ってきて、外より家の中の方が寒く感じる」ことがよくあったとか。そのため、希望したのは「身体に負担がなく、家族みんなが心地よく暮らせる家」。家族思いのご主人は、奥さまもお母さまもみんな納得した上で、家づくりを進めたいと、家族揃ってオープンハウスなどに足を運んでは、間取りや部屋の広さなど図面では理解しづらい部分を、ていねいに説明したそう。なかでも、長年住み慣れた家を解体しなければならぬお母さまの心情を和らげようと、間取りにもひと工夫。使い勝手がよく、お友だちも気兼ねなく遊びに来ていただけるよう、母の部屋とトイレを玄関近くに配置しました。